

2019年11月17日

「はじめてのキリスト教」説教要約

聖書が教える終末

(IIテサロニケ2・1〜12)

一、テキストが語る終末

終末には何が起るのでしょいか。世の終わりは、どのような時代になるのでしょうか。パウロは、語っています。3節後半より4節をご覧ください。〈なぜなら、まず背教が起こり、不法の人はすなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。〉とあります。

パウロに拠れば、主の日、すなわちキリストの再臨はすぐには起こらないといふのです。天に挙げられたイエスがもう一度やって来られる前に、不穏な時代、困難な時代がやって来るといふのです。〈背教が起こる〉、すなわち、伝えられた教えの規準から離れる異端者が起こるといふのです。さらに、〈不法の人、すなわち滅びの子が現れ〉、〈自分こそ神であると宣言する〉といふのです。

ですが、不法の人、すなわち滅びの子はまだ現れていない、ゆえに再臨は起こっていない、なぜなら不法の人、滅びの子の出現を抑えているものがあるか

ら、と語っています。それが、6節です。〈あなたがたが知っているとおりに、彼の定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。〉

ですが、時が来ると、抑えているものがなくなり、彼は出現するといふのです。それが、7節、8節です。〈不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があつて、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現れますが、〉とあります。そして、〈不法な人〉は主イエス・キリストによつて滅ぼされると、パウロは語っています。8節の続きです。〈主は御口の息をもつて彼を殺し、来臨の輝きをもつて滅ぼしてしまわれます。〉とあります。

二、終末を考察する際に

〈終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。〉とは、テモテへの手紙第二3章1節の聖句ですが、パウロがテサロニケの信徒たちに語った際に、根底にある思いと共通します。世の終わりが近づく困難な時代、どうしようもない時代になるという歴史観を、キリスト教会は持っています。ですが、その歴史観はキリスト教会のオリジナルではありませんでした。紀元前2世紀頃のユダヤ教の中にあつた受け止め方です。旧約聖書の中に、この歴史観に立つて書かれ

た書物があります。ダニエル書です。ダニエル書は、世の中はどんどん悪くなり、どうしようもない時代になる、と語っています。その時に、次のようなことが起こると語っています。〈ダニエル7・13b〜14見よ、人の子のような方が天の雲に乗つて来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光榮と国が与えられ、諸民、諸国、諸言語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。〉と。すなわち、獣のような強い指導者によつてではなく、人の子のような方によつて神の国が現れる、と語っています。

実は、ダニエルという人は紀元前7世紀の終わりの人ですが、ダニエル書が発行されたのはずっとつと後の、紀元前2世紀の中頃です。パウロが、〈終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。〉と語った背景には、当時の歴史観があつたことを知っておく必要があります。

三、聖書が教える終末

終末、すなわち世の終わりに、何が起るのでしょいか。まず、困難な時代がやってまいります。ですが、困難な時代がやって来るといふのは、聖書が教える終末の一面です。

終わりの時代に何が起きたのか、そ

して今現在も起きているのかの全体を見る必要があります。まず知るべきは、御子イエス・キリストがお生まれになつたことです。

次は、聖霊が降られたことです。聖霊なる神は霊ですから、どこにでもおられます。私たちのそばにおられ、御子イエス・キリストを信じる者の内側に住まわれます。

さらに、キリストがもう一度来られるといふことです。たしかに、キリストがもう一度来られる時代は、困難な時代になるようです。ですが、困難に勝る神の御力が信じる者を守られるのも事実ですから、希望を見失わないようにしてください。テサロニケ人への手紙第一に、次のような聖句があることを思い起こしてください。〈Iテサロニケ5・23〜24平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きつとそのことをしてください。〉と。何と希望に満ちた御言葉ではありませんか。これが、神の御意思です。

神は、すなわち父・子・聖霊として御自身をあらわしておられる神は、善いお方です。全幅の信頼を寄せるにふさわしいお方です。